

二〇一四年四月二日

燕の巢狙ふ鴉を憎みけり
雨晴れて瑞枝輝く芽立ちかな
雪解水ひた走りをる遊歩道
園抜けて落花まみれにバス来たる
花屑の余白にぬつと亀の首

満天
みちほ
ひさ野
さつき
満天

二〇一四年四月一〇日

お迎えのママらぺちやくちや園日永
花筏ペットボトルを虜とす
雨晴れて朝日をはじく木の芽かな
花屑を掬ひて水車回りけり

はく子
満天
さつき
なつき

二〇一四年四月九日

青淵へ舫ひ解かれし花見舟
暮れて威を得たる火の粉や花簪
村なべて同じ苗字や桃の花

なつき
ともえ
宏虎

二〇一四年四月八日

西行の碑に佇めば花ふぶき
水禍なお癒えぬ田なれど燕来る
囀や静まり返る座禅堂
白無垢の嫁入り舟や花堤

よし子
雅流
宏虎
なつき

二〇一四年四月七日

湯けむりの地獄をめぐる日永旅
弁当の箸がタクトや花筵
ベンチいま座る余地なく落花敷く

菜々
かかし
あさこ

二〇一四年四月六日

犬小屋も雪解やあるじ眠りをり
黒土を割りて物の芽二つ三つ
散り散りになりし早瀬の花筏
裏山を埋めてミモザ黄なりけり
花の雲貫きて立つ五重塔
風が掃く舗道の落花畳かな
一輛車花の籬に停車しぬ
鞆を漕ひでは山を引き寄せる

ひさ野
みちほ
三刀
ぼんこ
なつき
うつき
菜々
有香

二〇一四年四月五日

池畔亭水かげろふの春障子
遠目なる著き桜は大伽藍
ジョギングの歩をとめ憩ふ花堤
振り返りては夜桜の辞しがたし

ひかり
うつき
雅流
ともえ

毎日句会みのる選・二〇一四年四月一三日